

令和4年度浜松市立篠原小学校 学校評価報告書

1 令和4年度の取組

【学校教育目標】心と心が響き合う学校～自分を高め、共に未来を創る子～

	【徳】にこにこ	【知】きらきら	【体】ぐんぐん
目指す子供像	自分のよさを大切にする子	共に学び続ける子	進んでチャレンジする子
重点的な活動	<ul style="list-style-type: none"> 自己を見つめる道徳科授業 子供主体の学年集会 	<ul style="list-style-type: none"> 付けたい力を明確にした単元構想 対話的な学習の充実 評価を生かした指導改善 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の目標を明確にした体育科授業 授業とつながるカードの活用

2 自己評価

○ 児童の評価

※「とても思う」と「思う」と回答した割合

【徳】 にこにこ	進んで挨拶をしている。	79.2%
	自分にはよいところがある。	77.4%
	友達のよさを知ろうとしている。	88.6%
	友達と関わったり、協力したりすることは、楽しい。	94.5%
【知】 きらきら	ルールやマナーを守って生活している。	86.5%
	授業は、楽しく、よく分かる。	82.7%
	授業で相手の話をしっかり聞いたり、自分の考えを伝えたりしている。	79.3%
	めあてを意識して、学習に取り組んでいる。	78.6%
	授業中にタブレットをうまく使って、学習に取り組んでいる。	89.3%
	進んで家庭学習（宿題）に取り組んでいる。	82.1%
【体】 ぐんぐん	失敗を恐れなくて、挑戦している。	75.0%
	最後まであきらめずに粘り強く取り組めた。	80.4%
	外で元気に遊んだり、運動したりしている。	76.0%
	「早寝、早起き、朝ごはん」ができています。	78.7%
生徒指導・家庭地域との連携	クラスは楽しく安心できる場所だ。	89.8%
	先生は、よく話を聞いてくれて、相談しやすい。	90.5%
	家の人と学校の話をよくする。	81.3%
	地域の方は自分たちをよく見守ってくれる。	86.2%

○ 保護者の評価

【徳】 にこにこ	子供は、進んで挨拶をしている。	70.2%
	子供は、自分にはよいところがあると感じている。	89.0%
	子供は、友達のよさを知ろうとしている。	94.6%
	子供は、友達と関わったり、協力したりすることを楽しいと感じている。	95.7%
【知】 きらきら	子供は、ルールやマナーを守って生活している。	91.3%
	子供は、授業が楽しく、よく分かると感じている。	79.7%
	子供は、学校で友達と関わりながら、自分の考えを広げている。	91.3%
	子供は、授業のめあてを意識して、学習に取り組んでいる。	78.3%
	子供は、タブレットを効果的に使って学習している。	84.8%
	子供は、自ら家庭学習に取り組む習慣が身についている。	67.2%
【体】 ぐんぐん	子供は、挑戦する気持ちが育っている。	77.4%
	子供は、最後まであきらめずに粘り強く取り組むことができる。	71.0%
	子供は、外で元気に遊んだり、運動したりしている。	73.7%
	子供は、早寝、早起きをして朝ごはんを食べるなど規則正しい生活ができています。	85.8%
生徒指導・家庭地域との連携	学校は、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる。	90.8%
	学校は、面談や教育相談などが充実し、気軽に相談しやすい。	85.3%
	子供と学校の話をよくする。	91.0%
	地域の方は子供たちを見守ってくれる。	77.4%
	学校は、学校（学年）だより、ホームページ、ブログ、さくら連絡網等で積極的に情報を発信している。	89.4%

○ 教職員の評価

※85%以上A、70～84%B、55～69%C、54%以下D

【徳】 にこにこ	進んで挨拶する子が育っている。	C
	自分らしさを大切にする子が育っている。	A
	友達のよさを認めようとする子が育っている。	A
	人との関わりを大切にする子が育っている。	A
	道徳科授業の充実を図ることができた。	A

	付きたい力を明確にして授業を進めることができた。	A
【知】 きらきら	授業のめあてを意識させて学習させることができた。	A
	対話的な学習を充実させることができた。	A
	キャリア教育を意識した授業を行うことができた。	C
	ICTを積極的に活用して学習を進めることができた。	A
【体】 ぐんぐん	進んでチャレンジする子に育っている。	A
	最後まで粘り強く取り組める子が育っている。	B
	目標を明確にして、体育科授業に取り組むことができた。	A
	授業につながる学習カードを活用することができた。	B
生徒指導・家庭 地域との連携	いじめのない学校・学級づくりに取り組むことができた。	A
	子供や保護者の話をよく聞き、相談や面談を行うことができた。	A
	便りやホームページ、ブログ等で情報を発信することができた。	B
	外部講師や地域の方を活用して授業（活動）を行うことができた。	B

3 今後の改善方策

- 「自立と共生」を合言葉に、知（きらきら）徳（にこにこ）体（ぐんぐん）の3つの部として学校教育目標「心と心が響き合う学校」を受け、目指す子供像に向けて教育活動を行ってきた。定期的に3つの部のリーダーから昼の全校放送でねらいについて呼び掛けたり、運営委員会（学年主任者会）では、各学年の取り組み状況や今後へ課題を共通理解したりしてきたものの、全職員で学校を動かしていくところまでは至らなかった。そこで来年度は、全職員が3つの部のいずれかに属して、学年内の教育活動を中心となってリードしていったり、取り組みについて振り返る時間を確保し、教育活動がグランドデザインに沿っているかを常に意識したりできる環境を整えていきたい。
- 児童・保護者・教職員対象の学校評価アンケートで、篠原小の児童の課題点が、学びに対する主体性や積極性であることが明らかになった。普段の授業の中で「主体的に学習に取り組む態度」を育成していく。また、相互に学び合う対話活動の場を積極的に取り入れ、主体的に学びに向かう子を育てていきたい。そして、授業内で身につけた主体性を、他のさまざまな場面で発揮できるように3つの部を結ぶキーワードとして「カリキュラムマネジメント」を意識して取り組んでいきたい。

4 学校運営協議会委員による評価

- 「進んで挨拶をしている。」の評価が低いのが、数年前は上級生が朝早くに来て下級生に挨拶している声が聞こえたが、最近はその様子が見られない。評価が低いのは、その影響があるかもしれない。校外で声を掛けられると、不審がって挨拶をすることを躊躇する児童もいるかもしれない。朝の旗振りの際には、あまり挨拶を返してくれないが、学校を訪問して校内に入ると、皆挨拶をしてくれる。挨拶の意味や良さなどを学校や家庭で教えるとよい。挨拶は強制するのではなく、顔見知りになれば自然と挨拶はできるものなので、地域とのつながりや家庭での生活も大切である。
- 教職員の評価の中で、「キャリア教育を意識した授業ができた。」の項目が低いのはなぜか。アンケート結果は教職員全員で共有する場を設けた方がよい。
- 「クラスは楽しく安心できる場所だ。」の評価項目の評価が児童も保護者も高いのは評価できる。ただその一方で、1割の保護者は、不安に感じているということなので、来年度にむけてその分析と対処をしてほしい。

5 学校運営協議会委員の評価を受けて

- 来年度の教育活動は、「自立」に重点を置き、本校の児童の主体性や積極性を育成する中で、もっと自信をつけさせたい。一人一人が自信をもつことで、元気よく挨拶をすることにもつながると考える。
- 学校のビジョンを保護者と共有することが大切である。来年度は、年度初めに学校教育目標や経営方針を保護者に説明をし、学校の取り組みを積極的に発信することで保護者への理解が進むように努めたい。また、来年度は、三者面談を早い時期に、希望制ではなく、全員実施するようにする。